

当科では、受診者の皆様のご協力を頂き、下記の研究を行っています。

このページでは、当科における研究協力に同意を頂いた受診者の検診情報や 試料等がどのような研究に利用されたかを確認するため、九州大学医学研究院等倫理委員会に承認された審査申請書（研究計画）を掲載しています。これらの研究において、ご自身の提供された検診情報や試料等について研究への利用を拒否したいなどの場合には下記にご連絡下さい。

お問い合わせ先：

九州大学病院 第一外科

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

TEL：092-642-5441 FAX：092-642-5457

E-mail：s1-admin@med.kyushu-u.ac.jp

膵管内乳頭粘液性腫瘍に合併する通常型膵癌および異時性・同時性多発膵管内乳頭粘液性腫瘍における遺伝子変異および遺伝子発現と粘液形質の検討

・はじめに

膵管内乳頭粘液性腫瘍 (Intraductal papillary mucinous neoplasms, 以下 IPMN)は良性の腫瘍から悪性の癌へとゆっくりと進行する膵臓の腫瘍です。適切なタイミングで外科的に切除を行えば、一般的な膵臓癌に比較して良好な予後が期待できます。しかし、IPMN に 3-9%の頻度で合併する膵臓癌や、一つの膵臓にいくつも発生する IPMN を早期診断することは、画像診断が発達した今日でも難しく、その発生の仕組みは明らかになっていません。

IPMN はさらに 4 つの組織亜型に分類されます。それぞれで粘液形質(粘液の特徴や性質)が異なるとされ、腫瘍の性質(悪性度)を反映します。また、IPMN は遺伝子の突然変異が原因で発生するとされ、特に膵癌および IPMN の関連遺伝子として報告されている *GNAS/KRAS* の 2 つの遺伝子変異のパターンは先に述べた 4 つの亜型との相関が報告されています。したがって、膵臓癌を合併した IPMN やひとつの膵臓内にいくつも発生する IPMN の 4 つの亜型と *GNAS/KRAS* 等の遺伝子変異の有無を検討することで、膵臓癌や IPMN がいくつも発生する危険性の高い患者さんを予想することができれば、膵臓癌の早期発見につながる可能性があります。

また主膵管型 IPMN のうち、主膵管内に同じ病変が再発する可能性があることがわかりましたが未だ証明はされていません。さらに、再発しやすい患者さんが同定されれば、慎重な経過観察を行い早期に再発を発見できる可能性があります。

・対象

九州大学病院臨床・腫瘍外科において 1987 年 1 月 1 日から 2014 年 5 月 31 日までに IPMN の診断で切除術を受けられた方、260 名を対象に致します。診療目的で採取し保管している病理組織を用いて研究を行います。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

当科で切除された IPMN の切除標本を使って、粘液形質を免疫組織染色で、膵癌および IPMN で報告されている癌関連遺伝子の遺伝子変異を、遺伝子変異を調べる方法である Sanger 法、パイロシーケンス法で調べます。この染色と遺伝子変異の結果と患者さんの背景を比較し、通常型膵癌の合併や IPMN の多発性について考察します。

また、IPMN が多発する患者さんや、IPMN が再発し 2 回以上手術を受けた患者さんの切除標本を使って、遺伝子発現について調べます。網羅的遺伝子発現解析をマイクロアレイ法で、個々の遺伝子発現を RT-PCR 法、蛋白発現を免疫染色で調べます。それにより、主膵管型

IPMN の再発が同じ病変である事を証明し,さらには再発高リスクの患者さんの同定に役立
てます。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため,九州大学医学研究院・臨床・腫瘍外科学および形態機能病理学
においては,臨床データならびに病理組織の情報について,個人を特定できる情報を削除し,
データのデジタル化,データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り,第三者が個人情報を閲覧
することができないようにしております。

また,本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には,患者さんを特定で
きる情報は一切含まれません。

・データの二次利用について

この研究で得られた情報は,将来計画実施される別の医学研究にとっても大変貴重なもの
となる可能性があります。そのため将来新たに計画・実施される医学研究にも使用される可
能性があり,これをデータの二次利用といいます。なお,データの二次利用を行う場合には,
改めて研究計画を倫理審査委員会において審査し,承認された後に行います。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成30年3月31日までです。

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが,
将来研究成果は IPMN および膵癌の発症機序の解明および早期発見の一助になり,多くの
患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

研究責任者: 医学研究院・臨床医学部門臨床・腫瘍外科学分野・教授・中村 雅史

研究分担者: 大学病院・がんセンター・准教授・水元 一博

大学病院・胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植・講師・高畑 俊一

大学病院・消化管外科(1)・助教・大塚 隆生

大学病院・胆道・膵臓・膵臓移植・腎臓移植・助教・大内田 研宙

医学系学府臨床・腫瘍外科分野・大学院生・田村 公二

医学系学府臨床・腫瘍外科分野・大学院生・松永 壮人

医学系学府臨床・腫瘍外科分野・大学院生・木村 英世

医学系学府臨床・腫瘍外科分野・大学院生・伊達 健治朗

(研究計画書作成担当者)

医学系学府臨床・腫瘍外科分野・大学院生・藤本 崇聡

医学研究院・基礎医学部門形態機能病理学分野・教授・小田 義直
医学研究院・基礎医学部門形態機能病理学分野・准教授・大石 善丈
医学系学府形態機能病理学分野・大学院生・宮崎 哲之
医学系学府形態機能病理学分野・大学院生・持留 直希

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

担当：伊達 健治朗